

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	日本有数のハッチョウトンボの生息の環境整備
事業主体 (連絡先)	新山トンボの楽園を育てる会 事務局：伊那市富県 1301 電話 0265-72-5816
事業区分	環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,515,668円 (うち支援金： 1,384,000円)

#### 事業内容

- ・三年計画で昨年度改修した20mの延長部分40mの改修工事の実施。9月1日～10月31日
- ・環境保全の為に会員による草刈り作業  
春：5月29日 52名の参加  
秋：11月12日 実施予定
- ・トンボの楽園観察会実施 7月2日・3日
- ・新山小学校観察会 7月6日 25名参加
- ・アルプス少年団観察会 8月2日 95名参加



【歩道改修工事】

#### 【目標・ねらい】

- ① 環境保全と生息場所の拡大
- ② 地区内外への観察者の拡大
- ③ トイレ・案内表示の整備

#### 事業効果

- ① 年々、ハッチョウトンボの生息場所の移動があり、歩道もそれに対応して設置する必要がある。現在一番生息している場所への、歩道の設置でより良い観察が可能になる。
- ② 各報道機関や市内公民館および市内小学校に、観察会実施の案内を出したところ、予想以上の効果があり例年になく訪問者が増えた。また、6月17日の信濃毎日新聞のコラム欄「斜面」の載せていただき、県内外からの反響が大きく、平日に観察する人も増えた。

※自己評価 【 A 】

#### 【理由】

コロナ禍にもかかわらず、平日の予想以上の訪問者が見られた。

#### 今後の取り組み

残り部分の歩道の改修を進め、観察が安全に容易にできるようにする。  
また、2ヘクタールある低湿地帯でも、ハッチョウトンボの生息できる場合は限定されている。理由は、ハッチョウトンボの生息・繁殖できる水深2～3cmの水たまりの確保が難しいことにある。水の確保と水路の延長を進めたい。  
トイレ・休憩所をはじめ施設の不備があり、受け入れ態勢の環境整備も課題である。  
貴重なトンボの楽園の自然遺産のために、地域を中心に協力者(会員)を増やして、保護育成に努めたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある